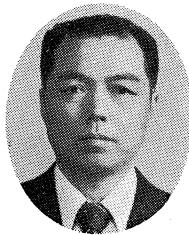


# 三つの「氣」



## 引地延男

うち鳴らす

捕手の手音に 全盲の  
投手はいまや 球投げんとす

いいようのないさわやかさを感じた。

毎年のことながら甲子園では全国高

校野球の試合が行われる。どのチーム  
も精一杯今までの練習の成果を出し

これは前任校である盲学校に赴任して間もなく、盲人野球を初めて観戦したときの感想である。パンパンと捕手

が手をたたく、投手はその音のする方向をじっと全身で確認るようにしてから球を投げる動作に入る。その一途な姿に強く心打たれた。

さて、私が障害をもつ生徒たちの教育に取り組むことになったとき、同じ立場の人たちと、話し合う機会があつた。

その折、ある一人が「障害児教育にあたっては、一つやる気、二つに元気、三つは香氣、この三つの氣だよ」と話していた。味わいのある言葉なので、

三つの香氣だが、これは單にのんびりという意味ではなくて焦らずにじっくりと取り組むこと。教育の効果は時を要することが多く、喜んだり落

ちしたりのくり返しである。多少楽天的構えて将来を展望せよという意味

である。

な球を投げ、打ち、そして走る姿に、盲学校の生徒が障害にもめげず大きな

毎年のことながら甲子園では全国高校野球の試合が行われる。どのチームも精一杯今までの練習の成果を出し、こうと全力で打ちこんでいる様子が、これまで世の人々の感動を呼ぶのである。

次に元氣について、これは健康と明朗のことであろう。教師は生徒に元氣よく接し、生氣のある人間を育てることと考えている。ともすれば悲観的に物事を判断しがちであるが、元氣を出して取り組むよう励ましていきたい。

教師生活三十餘年を経て、教育の多様化と荒廃が、ますます大きな社会問題になりつつあるとき、今こそこの三つの「氣」をもつてのり切らなければと私自身にいいきかせているこのごろである。

してきた。それから三年経過し、また普通高校に勤務することになった。そして先の三つの「氣」をふと思い出し、これは単に障害児教育の場だけではなくて、ほかの場合にもあてはまるのではないかと思うようになった。

何といってもやる気がなければどうにもならない。教師である我々は、生徒たちにいかにしてやる気をおこさせるか、これがある程度成功すれば、教育の仕事は大半その目的が達成されたといつても過言ではあるまい。最近はことにやる気のない無表情、無感動の生徒が増えているのが目立つてならない。我々教師のやる気を生徒たちに伝え、意欲をもたせる努力と工夫が急務とされる。

話は変わるが、私は趣味として、家庭菜園づくりを楽しんでる。年間約二十余種の野菜を毎年同じように作っているのだが、年ごとにできばえが違う。これは気候条件が毎年同じでないのがその理由の第一だが、さらに耕やし方ひとつをとっても、十分に深く鍬を入れたときは必ずできが良く、反対にこのぐらいならよからうと手加減した時は、よいものはできない。結果があまりにも歴然と出てしまうので自然の摂理は何ときびしいものかと感心してしまう。教育の仕事にも相互通ずるものがあるよう思えてならない。

といつて思う。